

議会報告会 終了しました。

多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。



概要

7月10日・石田会場、11日・勝本会場、12日・芦辺会場、13日・郷ノ浦会場の日程で、議会報告会を開催した。今回は議会運営委員長が司会を務め、議会の仕組み等を説明をしたあと、議会だより第33号掲載の市当初予算をもとに各常任委員長が審議内容の説明を行った。これらの説明に対する質問と市政全般について、参加者からの質問に各委員長が応答する形で会を進行し、活発な意見交換となった。

参加者からは大変貴重な意見を数多くいただき、将来への不安と、現状からの切実な要望等は、議会における活発な審議の糧となった。

アンケート結果でも明白であるが、「議会報告会」の継続を望む声が多い。議会としてもこの有意義な会を今後も続けていきたい。

参加者数

石田会場…市民19人(男性16、女性3)
議員19人(欠席・中村議員)
勝本会場…市民37人(男性30、女性7)
議員17人(欠席・久間議員・中村議員・音嶋議員)
芦辺会場…市民39人(男性39、女性0)
議員18人(欠席・中村議員・音嶋議員)
郷ノ浦会場…市民45人(男性36、女性9)
議員18人(欠席・中村議員・音嶋議員)



アンケート結果

(提出者…125人、回答率…89%)

議会報告会について

①報告会開催の評価	評価する104人	評価しない5人	どちらとも言えない10人
②議員の説明内容	よく分かる54人	分かりにくい20人	どちらとも言えない40人
③議員の説明時間	長すぎる6人	ちょうど良い75人	どちらとも言えない26人
④今後の報告会開催	必要103人	必要ない3人	どちらとも言えない15人

市議会について

①議会活動について	よく分かる45人	分かりにくい34人	どちらとも言えない37人
②通年議会について	良いと思う69人	分かりにくい23人	どちらとも言えない25人
③議会の情報公開	開かれている60人	開かれてない13人	どちらとも言えない42人
④議会への期待	期待する98人	期待しない5人	どちらとも言えない15人

▶ 石田会場 ◀

Q 廃校中学校の跡地利用の活用とその時期は。

A (総務文教常任委員長) 耐震基準のこともあり、活用方法や時期はまだ示されていない。

Q 小学校の統廃合はあるか？

A (総務文教常任委員長) 市長は地域性を考慮し急ぐ必要はないとの考えだが、教育長は検討する時期にきているとの考えである。

Q 生ごみ処理が始まるとの事だが、その収集方法は。

A (厚生常任委員長) 今年度はモデル地区を選定して試験的な生ごみ分別になると思う。ゴミステーションの一角に専用の容器を置き、1日2回程度の収集が必要と考えている。

Q 地域が要望することに対しては、議員の方から市民の中へ入ってきてほしい。

A (産業建設常任委員長) 要望があれば議員に申し出てください。そのような対応をしたい。

Q 国保・介護保険の問題について、独居老人に島外にでも子どもが居ればその子が負担すべきではないか。

A (厚生常任委員長) 同感である。しかし、これは強制できるものではない。

Q 通年議会のメリットは何か。

A (議会運営委員長) 議会議長の主導でいつでも議会が開催できる。市長の専決処分を減らせる。



7/10 石田町農村環境改善センター

Q 議員定数を16人に減らすと話しやすくなるのでは。

A (議長) 個人の見解として、委員会構成の問題もあり16人より減らす事はできない。

Q 九州郵船ジェットフォイルの1時間前からの発券業務は理不尽。予約の段階で指定席にしてほしい。

A (議長) 五島航路は全席指定と聞く。九州郵船の発券業務等について調査し、改善を要望する。

Q ボランティア活動が多いが、島内の自動販売機を撤去してはどうか。環境も良くなり商店の活性化にもつながる。

A (産業建設常任委員長) 大人が捨てた空き缶を子ども達が拾う姿などは忍びない。即答できないので検討する。

Q 郷ノ浦・石田・勝本の焼却場が廃止となるが、有効活用として東北の被災地ガレキを受け入れる事はできないか。

A (厚生常任委員長) 壱岐市は最終処分場をもっていないので受け入れは困難。

▶ 勝本会場 ◀

Q 保険税が増額となった。3年毎の見直しはどのようにしているか。

A (厚生常任委員長) 高齢化等に伴い介護や高額医療対象者が増えており、全体が上がっている。基準額の段階設定も見直されている。

Q 介護認定の状況は

A (厚生常任委員長) 介護認定調査員のチェックシートと医師の診断書をもとに判定。

Q 滞納状況は

A (厚生常任委員長) 滞納額は国保が3億4千万円。値上げになり、更なる滞納を懸念している。徴収は強い態度で臨んでいる。

Q ジュニアスポーツの遠征等で、保護者が費用等に苦慮している。例えば消防団の手当て増額分を子供のために使おうという考えはなかったか。

A (総務文教常任委員長) ジュニアクラブでの過度



7/11 市役所勝本庁舎

なスポーツ指導も問題点がある。行政の予算では消防費を教育費に転用はできない。

Q Iターン、Uターンが少ない。JAやJFとの連携もとれていない。市はもっとしっかり取り組むべき。

A (総務文教常任委員長) 今後、制度を充実するよう要望する。

Q 副市長の給与額は。市税は4%上がった。人口3万人の市に副市長2人が必要か。

A (議長) 月額64万円。病院企業団加入の特命。市長が全国離島振興協議会会長に就任した為、公務が大幅に増える。

Q 一次産業の後継者対策をどう考えるか。議員個々の考えは。

A (市山和議員) 離島活性化交付金等の活用を。
(中田議員) 親の立場からも農業・漁業の魅力を子供たちに伝えてほしい。
(大久保議員) 認定漁業者制度等の活用で後継者を育てる。



Q 下水道事業の収支が悪い。加入率100%を目指す。加入負担金等の周知を明確にして。

A (産業建設常任委員長) 加入率70%以上でないと運営が厳しい。今後も加入促進を促していく。

Q 勝本地区も下水道を早期に計画してほしい。

A (産業建設常任委員長) 以前の勝本地区の加入希望調査では、希望者が10%程度だったため計画は先送りされている。

Q 車検シールの問題が新聞報道されていた。市のイメージダウンであり公務員志望の若者に不安を抱かせる。

A (総務文教常任委員長) 職員に市長から強く指導がされているが、議会からも再度申し添える。

Q 沓崎市が教育で力を入れているところは。

A (総務文教常任委員長) 小学校の統廃合の問題。

芦辺会場

Q 沓崎市の学校耐震化は県下で2番目に取り組みが遅れている。その理由と議会のチェックはどうか。

A (総務文教常任委員長) 遅れの理由は把握していないので調べてみる。耐震化工事は27年度終了。

Q 議会基本条例にある議会招集は具体的にあったのか。市長の反問権は行使されたか。通年議会のメリットは。

A (議長) 議会招集は実際に行っており、反問権は1回あった。通年議会のメリットは専決処分の抑制。

Q 自治公民館の統合についての考えは。投票率の低下、税収納率の低下をどう思うか。議員は減少しているが、議会の職員数はどうか。

A (総務文教委員長) 自治公民館の件は明確な答弁を得られない。投票率の低下は高齢化や政治離れも考えられるが、努力する。税収率アップのため、職員は努力している。議会事務局は、議員数は減っても事務量は変わらないため5名は必要。

Q 欠席議員の報告と欠席理由が必要。

A (議会運営委員長) 中村議員、音嶋議員は自宅療養中のため欠席。

Q 水稲防除への助成金が無くなっている。耕作者の高齢化で需要は増加しているので是非補助を。

A (産業建設常任委員長) 要望として市に伝える。

Q 一般質問の50分時間制限は、議員の定数も減るので撤廃してはどうか。

A (議会運営委員長) 過去30分を50分に改善した。

Q 委員会の傍聴はできるのか。

A (議会運営委員長) 議会は原則公開である。ただし、委員会は委員長の許可で傍聴できる。

Q 議会は生産性が無い。定数の大幅削減を。

A (議長) 定数は住民との兼ね合いで決められる。



7/12 市役所芦辺庁舎

16人より減らすと付託審査は少数で行う事となる。

Q 市役所本庁舎の建設時期は。職員の専門性、英知を結集した活性化を図るべき。

A (総務文教常任委員長) 庁舎の一本化へ向け取り組みたい。職員の在り方について同感である。

Q 清石浜入口の道路で幅員拡張を求める場所がある。

A (議長) 道路実態は承知している。

Q 圃場事業の改善に努力してほしい。

A (産業建設常任委員長) 意見として承る。

Q 市長も光ケーブルを活用した雇用拡大を話されている。議員も勉強して提案してほしいし、公共施設の誘致も考えるべき。

A (議会運営委員長) 議会への提案として受け止めるが、市長へは直接の提案もできる。



郷ノ浦会場



7/13 壱岐文化ホール

Q 市民病院の持ち金2.4億円が減った訳は。

A (厚生常任委員長) 医師が減ったことと、精神科病棟を無くしたこと。

Q 医師が15名から9名に減った訳は。

A (厚生常任委員長) 全国的に見て医師不足。これは国の医療制度改革によるもの。

Q 中学校スクールバス利用は、平等性に欠けるのではないか。

A (総務文教常任委員長) 今後、新たに検討部会を立ち上げる必要があると思っている。

Q 小学校の統廃合に対する考えは。

A (総務文教常任委員長) 地域の文化の拠点でもあり慎重に協議をしたいというのが市長の考え。

Q 廃校の跡地利用、廃校は1年前から分かっていたこと。

A (総務文教常任委員長) 検討部会を立ち上げるように進言する。

Q 観光地にふさわしいと思って地域で管理している所にトイレの新設をお願いしたが、観光地ではないという理由で断られた。

A (産業建設常任委員長) トイレの管理費に多額の予算を必要としている。新設希望の場所をよく調査して担当課と協議する。

Q 国民健康保険・介護保険料の設定はどこでされ、議会はこれに関わっているか。

A (厚生常任委員長) 国の基準に照らし事務方で処理をし、議会には報告がある。条例改正の場合は議会で審議して結論を出す。

Q 三島の通学方法(早朝補習・クラブ活動)の境遇を改善して欲しい。

A (総務文教常任委員長) 気持は十分わかる。教育委員会と協議をする。

Q 国民宿舎の現状は。

A (産業建設常任委員長) 本年9月末完成予定で、11月1日オープン予定。

Q 鯨伏中学校の跡地利用はどのようになっているのか。

A (総務文教常任委員長) グラウンドについては、地域で活用の要望が出されている。

Q 特別養護老人ホーム建設問題はどのようになっているのか。

A (厚生常任委員長) 基本的に湯の本地区での建設となっている。必ず立派なものができます。

Q 独居老人が多くなり孤独死が増える傾向にあるが、市としての対応は。

A (厚生常任委員長) 私は地域ぐるみでの対応が大事だと思う。民生委員の対応も限界にきており、ケーブルテレビでの対応も考えられるのではないかなと思う。



高校生も意見を述べてくれました

▶会場アンケートで寄せられた「声」

- ・この報告会は壱岐のことについて知るとても良い機会でした。
- ・本庁舎の建設を、市当局と一体となって早期に実現してほしい。
- ・議員は公民館長ではない。質問や要望ばかりでなく勉強して提案して頂きたい。
- ・市民の考えもいろいろ幅広あるものです。よりよい判断にたたれてください。
- ・行政へのチェック機能が甘いのではないかな。
- ・今回のような報告会を開き、議員がどんどん市民の中に入って、市民の声を聞いて市政に取り入れて欲しい。
- ・市民の声を聞こうという意識に議員個人に差がある。普段から地域とのふれあいをもっと深く持ってほしい。
- ・一般市民のリアルな意見、そして疑問等が聞けて、とても胸に響きました。壱岐を想う方々の熱い訴えに共感を持ってました。
- ・質問時間が約1時間では短い。もっと長時間の報告会を希望します。
- ・市民の代表としての自覚をますます高め頑張ってください。

※報告会内容は、紙面の都合上、抜粋して掲載しています。